



「アーケ調剤薬局塩山店」では2～3年前から薬局内勉強会を始めた

た。疾患では糖尿病、心不全、不整脈などもテーマに挙げている。

当日使う資料は書籍やネット、自分の経験や過去の事例などをもとに作成。ある時は老子の著書と伝えられている道家の経典「老子」の中から「上善水如」の部分を取り上げ、柔軟性や謙虚さなどの大切さを示唆した。

勉強会の進行を現場任せにすると、時には方向性がずれたり、求めていたレベルに達しないまま終わるケースもある。それでも北野さんはそれを否定せず、いったん受け入れる。「ダメというモチベーションが下がり、やる気をなくしてしまう」からだ。いったん受け入れたものは次の機会に持ち越し、後日改めてテーマに取り上げる。

## 着実に現れている勉強会の成果

勉強会の成果は着実に現れており、薬局長の意識も変わりつつある。ある時には勉強会で介護保険のことを取り上げた。その後、薬局長がたまたま、不足分の薬を届けに、ある家に行ったとき、足の不自由な患者の状況を知り、いつも代理で来局する家族の人に介護保険の申請を薦めた。家族の人から介護保険の資

料を求められると、薬局長は知り合いのケアマネジャーに資料をもらい、患者宅に届けたという。薬局長が問題意識を持ち、患者に道筋を示すことができた瞬間だ。

## 2週間に1回、早朝勉強会

ホロン（広島県）の「すずらん薬局」と「すずらん薬局本店」は合同で早朝の勉強会を行っている。

勉強会は5年ほど前、「すずらん薬局」で開始。昨年、近くに「すずらん薬局本店」ができたのを機に、合同で開催するようになった。勉強会は2週間に1回、土曜日の朝8時から30分ほど行う。場所は両店舗の間に位置する本社内。参加者は両店舗の薬剤師で、対象者は強制的に参加させている。現在はこの春入社した新人を含め計15人ほどが参加しているという。

## 薬剤師が持ち回りで講義

勉強会は毎回、参加者の1人が講師役となり、あるテーマについてレクチャーする形で話を進める。講師役は持ち回りで全員が担当。取り上げるテーマは各自の裁量に任せている。比較的、自分の苦手な分野をテーマに取り上げる人が多いが、中には自分の得意な分野について講義する人もいる。

担当が回ってきた薬剤師はテーマに合った情報を書籍やインターネットなどを使って収集。それらを資料にまとめ、当日、参加者に配布する。薬剤師によっては当日の講演原稿も作成する。これまで取り上げられたテーマは関節リウマチ、高血圧、不眠症など。関節リウマチを取り上げた

時はリウマチの定義、診断、疫学、症状などについて解説。うつ病とうつ病治療薬の時はうつ状態を呈する疾患、背景、原因、うつ病治療によく使われる薬剤、各種抗うつ薬の特性などについても触れた。

## 次回に再度、講義させることも

中には薬局の現場で使える手話を取り上げた薬剤師もいる。この時はまず主な単語の手話を教え、その後、「手話はできますか?」「こちらに来られるのは初めてですね?」など簡単な文章の手話を全員で練習した。薬剤師の中にはこのほか、社外のセミナーに参加して学んできたことをこの勉強会の題材にしている人もいる。講義の後には毎回、質疑応答を行う。講義の内容が不十分で分かりづらかったり、質疑応答の際の質問に答えられないことが多かったりした場合、次回に再度、講義させることもあるという。

この夏には今春入社した新人薬剤師らにも担当が回ってくる予定で、いずれも講師役を務めることになる。同社では一連の勉強会は「自分で調べたり、質問を受けたりすることで、深く勉強することができる」とみており、今後も「細く長く」続けていきたい考えだ。



ホロンが早朝に行っている2店舗合同の勉強会